

都道府県の活動

全国の慢性期医療協会から
活動状況を紹介するコーナーです

東北 東北地方慢性期医療協会 排尿機能回復のための治療とケア講座開催

医療法人金上仁友会 金上病院（開催事務局）理事長 **安藤正夫**

平成29年2月6日から8日の3日間、東北地方慢性期医療協会主催で排尿機能回復のための治療とケア講座が仙台市のフォレスト仙台において開催された。開催にあたっては、企画段階から全運営過程を通して、日本慢性期医療協会より多大なるご支援をいただいた。ここにあらためて深謝申し上げたい。

本講座は新設された排尿自立指導料算定のための該当研修に当たる。本加算は院内に多職種による排尿ケアチームを設置し、下部尿路機能回復のための包括的排尿ケアを実施することを評価するものである。質の高い慢性期医療や介護の現場、また在宅復帰のうえでも非常に重要な課題であり、より高度なケアの普及が欠かせない。しかしながら、該当研修は少なく、全国でも未だ数回であり（多くは日慢協関連の開催）、東北・北海道では機会がなかった。

今回の仙台での開催に際しては、東北労災病院泌尿器科の浪間孝重先生と、むらた日帰り外科手術・WOCクリニックの皮膚・排泄ケア認定看護師である熊谷英子先生に全面的なご協力をいただいた。お二人のご尽力により、浪間先生に加えて東北大学泌尿器科より3名の医師、また、宮城県内各病院より5名の皮膚・排泄ケア認定看護師、2名の排尿機能検査士、排尿自立のためのリハビリテーションに実績のある作業療法士、そして多くのお手伝いのスタッフを招聘することができた。また、実習で必要となる物品類の準備などにおける関連企業の協力もお手配いただいた。

参加者は医師17名、看護師88名の計105名で、北海道から九州まで全国各地からの来仙となった。プログラムは厚生労働省の認可のもとに企画されている。初日は座学が中心で、午前中は、排尿機能障害の病態・診断・治療などの講義が、午後は、排尿ケアチームの役割や排尿自立に向けた実践に関する講義などが一日みっちり続いた。医師の参加は初日の

みである。2日目以降は講義とともに実習のウエイトが大きくなる。排尿日誌の重要性に始まり、排尿ケアの事例検討、エコーによる残尿測定や各種排泄用具の使用法、自己導尿の指導方法などが、小グループに分かれて18時過ぎまで活発に賑やかに実習された。最終日は作業療法士による骨盤底筋訓練の演習などが行われ、最後に東北地方慢性期医療協会会長穂積恒先生の閉会の挨拶をもって終了となった。

非常に密度の高い3日間であった。参加者アンケート（回収80名）では、「よい・まあまあよい」が、日程・時間で97.5%、講師・内容で100%、運営で98.8%であった。また、事務局所在地の宮城県角田市のオリジナルスイーツを休憩時間などにたくさんお出ししたところ、若い女性が多い講座ということもあってか非常に好評であった。

今回、研修を修了された方々が、それぞれの病院に戻って排尿ケアチームを立ち上げ、排尿障害で悩んでおられる患者さんやご家族のお役にたつことを期待する。

なお、東北地方慢性期医療協会は、東北6県が集合して一つの支部として活動している。本年10月19日・20日には、第25回日本慢性期医療学会を仙台国際センター会議棟において開催予定であり、現在鋭意準備中である。

